

新潟

NIGATA
nigata@mx.mainichi.co.jp
http://mainichi.jp/area/nigata/

新潟支局

〒951-8106
新潟市中央区東
大畑通1番町643
☎025(222)1515
FAX025(222)1517
長岡支局
☎0258(32)0906
FAX0258(30)1065
上越通信部
☎025(523)2566
佐渡通信部
☎0259(74)4202
南魚沼通信部
☎025(770)0655
新発田通信部
☎0254(22)3332

広告は

☎025(222)1881

購読は

☎0120・468・012

中通 (223)0844

牡丹山

(273)7544

上所 (285)1646

小針 (266)2683

寺尾 (269)2504

亀田 (381)6883

月潟 (372)2005

燕 (62)2223

東三条 (33)0247

加茂 (52)0349

栃尾 (52)3236

長岡大手

(32)0749

新発田(24)1818

五泉 (43)1110

新津 (22)2015

両津 (27)2345

佐和田西

(52)5021

小出 (792)7711

十日町東部

(752)2237

六日町

(772)7881

塩沢 (782)1550

柏崎西(21)0671

上越東

(528)4046

春日山

(525)5613

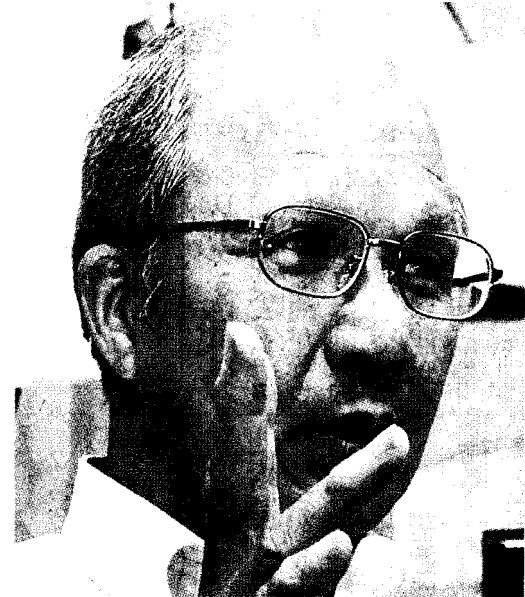
上越木田

(526)7291



「新潟県薬物依存症者を抱える家族の会」世話人

小西 憲さん(61)



こにし・けん 1948年、旧高田市（現上越市）生まれ。長男は依存症から回復し、都内で1人暮らしを続けている。会の連絡先は（090・8723・3715）。「気軽に相談を」

ため、警察に保護を依頼。ダルクの担当者が警察署まで引き取りにきた。そのころ、悩みを共有できる場を作ろうと数人の仲間と設立したのが家族の会。芸能人や学生の乱用が相次いで発覚するなど、薬物汚染はとどまる気配を見せない。「世間体を気にして表に出てこない家族は多い。会の存在を知って、相談に来てほしい」と呼びかかる。

【畠山哲郎】

悩みを共有できる場を

02年2月、「新潟県薬物依存症者を抱える家族の会」を設立した。これまで100家族から相談を受けた。覚せい剤、シンナー、大麻……。薬物乱用に陥った子どもを何とか愛情で立ち直らせようとするが、成果が上がらず苦悩している親に対し、一依存症は病気。意志でやめられるものではなく、親が愛情で治そうとしてもいけない」と訴える。自らの長男(31)もかつて依存症だった。東京に住んでいたころ、アルバイト仲間を誘われて覚せい剤に手を出した。依存症になり、10年前の春から治療を始めたが入退院

の繰り返し。覚せい剤と似た感覚を得られる市販薬を万引きし、大量に飲んだり、自宅でリストカットを繰り返したことも。小西さんは妻と薬局に出かけて頭を下げたり、自殺しないよう台所の包丁を隠した。

治療を始めて半年後、思うようにならないまま途方に暮れていた。その時、インターネットで目にしたのが民間の薬物依存症リハビリ施設、ダルク(DARUK)だった。施設では依存症患者が共同生活の中でお互いの体験を語り合いながら回復を図る。更生する人もいれば、再び薬物に溺

れる人もいる。入所者は自分と同じように苦しむ人たちを間近に見ながら、自分が「自律して生きる道を模索する。を甘やかしては治らな

小西さんはワラにもすぎない」とくきを刺された。ダルクは、出入りが自由だが、逃げて出した入所者が自宅に帰ってきたが、心を鬼にして帰るよう命じた。だが長男が決った